

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000172		
法人名	社会福祉法人ライフサポート協会		
事業所名	グループホームであいい		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市住吉区大領5-6-2		
自己評価作成日	2022年3月9日	評価結果市町村受理日	2022年4月15日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2792000172-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27
訪問調査日	2022年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は毎日三食手作りで、季節の献立や、誕生日の際は特別メニューなど入居者の皆さんからも「美味しい」と声を頂いております。また、可能な限りは職員も一緒に食べることで、「美味しいですか?」より「美味しいね」と言える空間づくりを大事にしたいと思っています。
入居者さんそれぞれのペースに合わせたケアを行うべく、起床時間や就寝時間、食事もそのとき食べられなかったら時間をずらすなどして対応しています。
入居しても全てができなくなった訳ではないので、ご自身で行える生活行為は施設でも行えるように、洗濯や花壇の水やりなど、個別に合わせてサポートさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は二つの沿線の間中に位置し静かな住宅街に囲まれて、買い物や長居公園へ散歩に行くにもちょうどいい場所にあります。高齢者・障がいのある人、皆が足を運んで人と人との出会いができる場所を作りたい・そんな地域の拠点になりたいと「人権社会の実現」を目指して建てられた施設です。食事も地域のスーパーに買い出しに行き、毎日フロアでご飯作りをしています。感染症が蔓延するまでは利用者が慣れた手つきで包丁を使い、「高齢で認知症だから危ない」と思っていた職員に認知症でもできる可能性がたくさんあることを気づかせ、型にはめて決めつけない支援を実践しています。屋上では、ほうれん草・玉ねぎなどを作り新鮮な野菜を食卓に出すこともあります。法人内の事業所との交流もあり、小学校児童の下校時の見守り声掛けも行き、地域の繋がりを大事にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目+A19:T47L24A19:T43A19:O47		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領及び実践行動指針に基づいて、再周知を行っている。また、法人理念「すべての人が尊敬される社会の実現」を日々の利用者支援へと繋げていっている。 また、法人研修の中に「実践行動指針について」の内容が組み込まれており、指導職及び中堅職員対象に実施している。	理念は館内に掲示しています。利用者の人権・尊厳に関することは法人研修の中で学ぶ機会を作っています。利用者個人の生活リズムを尊重しその人らしさを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	何をもって地域との繋がりを感ずるか、また「地域」をどのように捉えるのか、という部分を改めて考える必要があると感じる。 施設の近隣だけで考えていると、元々馴染みのない方は繋がりを作ることが難しくなる。 施設として、活動する地域との繋がりを考える一方で、個人に焦点を当てた「その人にとっての地域」を考える視点を当てていきたい。 開設当初より、毎月発行している「であい通信」は貴重な情報発信のツールとして、館内の掲示はもちろんのこと、町会役員会での配布用に、毎月20部を町会長へ届けている。	小学校のおたより通信が、施設にも届いています。また、「であい通信」は敷地内の外からも見える場所に掲示し、通りすがりにも目に留まるようにしています。また利用者個人が築いてきた地域との繋がりを継続するためには何が必要かを考え、それぞれが地域で生活し続けているという意識を大事にしています。 管理者は大阪市の小規模多機能連絡会事務局長をしており、個人記録のフォーマットを使いやすくするためのアドバイスを受け、変更することができました。事業所間の横の繋がりも大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でストップしていたオレンジカフェ（認知症カフェ）の取り組みを、何とか再開できないか、と11月に1度開催することができた。 認知症理解の啓発として、「見守りあいアプリを使ったかくれんぼ」を行っている。	11月に開催された「オレンジカフェ」で啓発活動を行い、ボランティアの人たちとの繋がりを確認することができました。感染症収束後は、地域交流スペースの活用を再開し、人と人とのであいと交流の場を地域に根付かせ、地域の催しにも参加することを楽しみにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍に伴い、2021年度中は全ての会議を書面開催で行っている。 参加してくれているメンバーさんを考えると、オンライン等での開催は難しいため、感染状況を見ながら、従来通りの会議開催に向けて調整をしていきたい。	書面での開催が続いていましたが、次回の運営推進会議は対面で行う予定です。書面開催ではグループホームの様子だけでなく、同じ敷地内の小規模多機能施設や自立支援事業所も紹介して「大領の家」すべてをアピールしています。市内に他の社会福祉法人が運営するグループホームも数件あるので、運営推進会議に相互に参加できるように、今後呼びかけをし、学びを広げていくよう努めていきます。	他のグループホームも招待して意見交換を行うことで生まれる新しい見方やアイデアや地域内外の方々から集まった声がさらなるサービス向上に生かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度のことなど分からない事があれば、管轄である大阪市及び区に連絡し、解決に向けて確認を行っている。 法人内に住吉区北地域包括支援センターが委託されていることも強みであり、何気ないことでも相談し、連携している。	11月に開催した「オレンジカフェ」で地域包括の職員・ボランティアが参加し認知症理解の啓発活動をしました。「見守り合いアプリを使ったかくれんぼ」を一緒に行いました。法人内に住吉区北地域包括支援センターが委託されているため連携がしやすい状況にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修などを通して、どういった事が身体拘束になるのかの共有、意識の強化を定期的な自己チェックを用い行っている。自宅と同様、夜間においては、防犯の為に玄関の施錠を行っている。	法人で年間の研修を企画し、その中の身体拘束・ハラスメント・事故防止の研修などに参加しています。研修で気づいたことなどを記録し、研修資料とともにファイルし、管理しています。日常業務の中で気づいたヒヤリとしたことも記録し、フロアに置いて振り返り材料にしています。センサーマットについては、身体拘束の面だけでなく利用者の権利擁護の面からも適切な利用について常に考えるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内においては、「権利擁護」、部門内研修においては、「プライバシー保護」を通し、学びを深めている。今年度は、コロナ禍による蜜をさける事も踏まえ、書面周知及び委員会からの報告に留まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記7同様、法人内においては「権利擁護」、部門内研修においては「プライバシー保護」を通して学びを深めている。成年後見制度を利用されている方が居られるが、全体で学びを深めていく機会が必要。コロナ渦において、書面周知研修となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、できる限り分かりやすい様に説明することを心掛け、可能な限り時間を掛けて説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは日々の関わりにおいて、ご家族とは面会時や日々の電話連絡にて意見交換させて頂いている。 また、年に1度、ご利用者ご家族へアンケートの実施を行い、結果についても報告し課題については改善に努めている。	家族にアンケートで、満足度調査を行っています。今年は感染対策に関することも尋ねました。面会禁止の時もあり、毎月の便りには、利用者が口紅を使って化粧をしている姿・職員の手伝いをする様子を写真で切り取り、お便りの中に入れ何気ない日常のひとこまを知らせています。家族が気になる情報をタイムリーに発信することを心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回/年のヒヤリングを行い、課題を明確化してモチベーションアップに繋げられるよう努めている。	職場では身近にいる職員に自分の思いなどを話することができる環境です。管理者も面談を通して聞き取りを行っています。今年は非常勤との面談がまだですが、なるべく早く機会を作りたいと考えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は非常勤職員との面談の機会を作れず、アンケート形式での意見の吸い上げに留まっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度ごとに個別研修計画・人事考課を通して、職員個々の課題を明確化し、課題達成への取り組みに繋げている。また、自部署だけに捕らわれず、必要であれば法人内他部署の協力の下、研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内及び区内の他事業所に、気軽に相談できるところがある。また、社会福祉法人が運営するグループホームが加盟することができる連盟との情報交換にも努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がしたい事、できる事、望まれる生活を聞き取りプランを作成する為にも、インテーク場面から話し易い場の環境づくり、信頼関係構築の一步を大切に支援へ繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な事、分からない事については、様々な場面において、時間を掛け聞かせて頂いている。ご利用者本人のニーズを生活場面を共にし、会議や研修で共有し、暮らしに繋げるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所だけで抱え込むのではなく、ご家族の関り、地域社会資源の活用も考え、一緒になってプランを作成している。ご利用者本人のニーズを生活場面をと共にする事で共有し、暮らしに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を通し、地域を知り、ご利用者を通して生活の知恵を学ぶ姿勢を職員間で共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の繋がりを切らさないように、事業所がすべてを対応しようとせず、「一人じゃないよ！」本人さんに関わる方々と「共に」の支援実践を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの係りつけ医や美容室などは出来る限り継続できるように取り組んでいる。入居の際に、馴染みの私物をたくさん持ってきて頂くように伝えている。アセスメントでご本人のこれまで歩んでこられた人生を知る。ご家族や知人への連絡等、関係性を断ち切ることがないように努めている。	感染予防のため面会も途切れていましたが、面会時間を決め、地域交流スペースを利用し対面での面会を再開しました。利用者が過ごしてきた経緯を把握し、馴染みの関係が途切れないようにしていきます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の入れ替わり等もあり、ご利用者間の関係性の構築は日々意識しているが、まだまだ認め合いの場が少なく生活場面での繋がりが暮らしの環境づくりの強化を意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お一人ではあるが、契約が終了した家族さんが今も継続して運営推進会議のメンバーとして関わりが継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む暮らし、ご本人がしたい事を先ず考え、プラン作成を行っている。その為に、本人の声、ご家族の声を十分に聴きとる雰囲気づくりに努めている。	「この人はこうだ」と決めつけずに、利用者の声を丁寧にくみあげて、記録に残しています。会話で伝えられない方の、表情や仕草から意向をくみ取ることは難しさもありますが、柔軟な対応で声にならない声を拾うように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの声を頂き、左記の把握に努めている。また、その声をもとにプラン作成を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が生活場面で出来ることを共にみつけ、一人一人の暮らしにおける思いを大切に関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議の中で、その月のモニタリングの内容を共有しています。 ただし、当月の様子を総括して記載されている部分がほとんどで、計画書に基づいたケアを行った結果どうだったのか？というポイントの評価が課題。	会議の時にモニタリングを行っています。計画作成者は本人にとって何がベストなのかを考えて計画を作成しています。モニタリングではひと月の過ごし方や気づきだけを伝えることが多く、ケアプランとはまだ少し隔たりがあります。今後利用者の担当制も考えています。	利用者の担当を決め、関りをさらに深め意識することで、モニタリングの参加だけにとどまらず、プランの内容や作成にも職員一人ひとりがさらに関心を持つようになることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度は下半期から記録物について抜本的に変更を行った。より個人にスポットを当てたかたちで、最小限で最大効果の力が発揮できることを目指していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせた支援に努めている。例えば、入居前に通われていたデイサービスへ自費にて継続的に通われたり、住んでいた自宅に馴染みの物を取りに帰ったりなど、柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは、ご本人と地域資源、馴染みの関係は断ち切らない支援に努めている。今年度は、コロナ渦の影響もあり、地域社会との遮断傾向が強かった。QOL低下及びADL低下を引き起こす事が危惧される。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り一人一人の馴染みの係りつけ医にて、ご家族対応或いは事業所対応にて連携を図っている。ご家族対応の場合でも、必ず受診情報を確認させて頂いており、必要に応じて医療機関に連絡・調整を図っている。	一人ひとりの係りつけ医を大切に訪問診療医とも連携を取りながら健康管理に努めています。訪問診療は週5日あり、いつでも相談できる体制で安心に繋がっています。また、訪問看護事業所との24時間オンコール体制もあり、健康チェックを行ったり、週1回の訪問歯科で口腔ケアも行なっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており、訪問看護事業所との24時間オンコール体制を行っている。また1日以上/週、訪問看護職員による訪問があり、健康チェックを行っている。ご利用者の状態変化の共有は常に行っている。看護師からも気づきの報告がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、定期的にケース会議を開催し、早期退院を促している。ケマネジャーを中心に、病院担当者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、利用開始時にご利用者及、びご家族と話し合っている。また、著しい状態変化及び終末期のケアの際は、再度説明を行い、意向の確認を行っている。看取りケアにおける指針・同意書については作成は行っている。	看取りケアにおける指針・同意書を作成し、利用者・家族と話し合っています。状態変化及び終末期のケアは担当医を交えて再度意向の確認も行っています。重度化した場合、キザミ食、ミキサー食、また総合栄養剤のエンシュア等を提供します。ただし、終末期に入るまでの生活に重きを置いての関わりを大切にしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	指示命令系統に則り、連携体制を整備している。また、責任者不在の場合の連絡系統についても周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練にプラスして、自主訓練を2回4回の火災想定訓練を行っている。現実的に考えれば、それでも足りない状況ではある。回数だけの問題ではないが、初期消火・通報・避難誘導、この3点が徹底できるように訓練に望みたい。災害用備蓄については、保管するスペースがないため、倉庫を購入する予定。	年2回の避難訓練、うち1回は消防署立会いで実施しています。火災想定での自主訓練は4回の実施を予定していましたが、4回目はコロナ禍のため実施できませんでした。避難方法としては非常出口から建物の階段を使用、階段を使用できない利用者は各階ベランダを避難場所としています。コロナ禍で実施できていなかった地域の方との訓練も次回は参加につなげていきたいと考えています。災害用備蓄は現在飲料水のみで、食材については保管するスペース確保のため倉庫購入を検討中です。	地域参加の避難訓練について、コロナ禍収束次第、ホーム主導での体制の構築を期待します。設置状況再検討中の食材用倉庫は、適正な場所の確保がいち早くなされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実際の対応で不適切な支援にあたりと感じた際は、その都度指導を行っている。また、入浴や排泄などの直接介助では、一人一人の個別の時間を大切に関わっている。	法人内の権利擁護の研修やホーム内のプライバシー保護の研修などで学びを深めています。生活の中では自己決定を尊重し、個別支援の時間を大切に関わるようにしています。化粧をする女性利用者もおり、身だしなみやおしゃれも大事な支援の一つとしてとらえ、今までの生活歴を把握、一人ひとりの人格や個性を尊重しています。管理者は、利用者に対して不適切な支援と判断した場合は、職員に状況を確認し、ヒヤリングを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用開始のプラン作成では、本人がしたい事を中心にプランを作成。また、日々の関わりでは、献立作成、おやつ飲み物、日中の過ごし方を利用者と一緒に考えて実施。年間行事企画においても、入居者の声・想いを中心に立案している。生活の中では自己決定の連続だということを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の想いを大事にし、対応できることは早急に対応するようにしている。その中で、「今後その人がどういった暮らしを望んでいるのか」ということを考える視点を忘れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は日々のひげ剃り、女性の方はこだわりの化粧品など、今までの暮らしが継続できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる楽しみを大事にしていく上で、利用者さんと一緒に考える献立づくりや、誕生日の際には本人さんの食べたいものを献立に入れるなど、行っている。	毎日の献立メニューを利用者と一緒に考え調理しています。コロナ禍でこれまでの買い物や調理、盛り付け、片付けなどに思うように参加ができない状況となっています。食材の買い出しでは地域に貢献できるよう、地域のお店を利用しています。誕生日には本人の食べたい物を献立に入れ、食の楽しみにつなげています。また、季節に応じて旬のものを提供したり、カレンダーに記された七草粥や土用の丑の日などを通じて暦を感じてもらうことも大切にしています。イベント時は本人の希望があればアルコールも提供しています。食事時間は画一的ではなく、時間をずらしたり本人の生活リズムを大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りである事から、細かな栄養指導は出来ていない。カロリー制限がある方は、量の調整、嚥下困難な方はトロミをつける、刻みにする等の工夫のみである。栄養バランスに関しては、一日10品目の食材を摂取出来るように献立作成を行っている。水分に関しては、いつでも飲める環境作り、細かな声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケア用品を準備させて頂き、食事後は声掛けを行っている。介助を要する方以外は、声掛け、見守りに対応を行うが、定期的に現場でのモニタリングを行い、プランに繋げている。訪問歯科での必要な治療や口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のサインを見逃さないように日々の関わりの中から観察している。現在、オムツを使用している方はおられず、できる限りトイレでの排泄を目指している。	排泄チェック表を利用し個々のペースを把握しながらトイレでの自然な排泄を支援しています。排泄という自然行為をトイレに座った時の感触で認識できることも大切にしています。日々の行動でも落ち着きがないとか、尿意・便意のサインとして捉えられることがあるので観察をも大事にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で可能な便秘予防、具体的には運動や飲水、食事などで対応し、個別では腹部マッサージや腹部の温め、ヨーグルトの購入などで対応している。又、主治医との情報連携を密に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、回数の希望の聞き取りを行い、可能な限り希望に沿った形で入浴支援を行っている。また、個浴にて1対1での入浴支援を原則とし、コミュニケーションを深める場と捉え関わっている。	入浴は基本週2回としていますが、希望があればその都度対応しています。入浴支援時は個々の関わりとして密になることで、思いを聴き取ったりコミュニケーションの場ともなっています。同性介助も実施しています。また、個人のボディソープやシャンプーの持ち込みにも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に気持ち良く眠れるように、日中における活動を心がけ、もし眠れないことがあっても、単に眠れないではなく、理由を考察して本人の想いに寄り添うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者服薬情報を個別にファイリングし、服薬管理が必要な方は事業所にて管理、服薬確認をさせて頂いている。また、居宅管理指導にて薬剤師との密な情報共有を行い必要な際は、助言を受けている。薬の内容が変更になった場合は、電話や面会時にご家族へ報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りのために、個別に輝ける場面を創出している。例えば、起きてこられて直ぐの方で、お昼に使うお米を毎朝洗ってくださる。一緒に花を植え、毎朝の水まきを率先し行ってくださるお花を好きな方がおられる。食事準備に精を出される方や他の方の白飯を注いでくださったり、私も役に立ちたいと頑張ってください方がおられる。洗濯を手伝ってくださる方や食器を濯いでくださる方もおられる。しかしながら、コロナ渦の状況で、予防対策を行いながら、暮らしの中で一人一人と共にある事の難しさも痛感させられる年度であった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のニーズによっては自宅へ帰ったり、ご家族へ会いにいったりなどの必要性は勿論考えているが、コロナ渦において、これらの展開には工夫と変化を余儀なくされた年度となった。	コロナ禍で外出や人との関わりも制限された中、広いベランダでは外気浴も楽しむことができ、花壇を利用した野菜作りはホームでの調理に好適です。また室内廊下の端から端までの歩行で運動による気分転換を図ったり、体操や制作活動などを工夫して気分を盛り上げる支援をしています。コロナ禍の1日も早い収束で従来の外出支援が再開できることを願っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理及び事業所で金銭管理をし、コロナ渦における現状、必要なものは代行にての買い物となっている。「お金を使って何かをしたい」と思えるようなことを一緒に考えていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人や、ご家族など入居者の希望に応じて連絡をとっている。現在個人携帯を持っておられる方はおられない。手紙に関しては、3ヶ月に1回のおたより発行及び、行事の際などのお便りや年賀状等を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保ち、生活の中の音を大切にしている。絵画など、季節感あるものを設置する事で四季折々を感じれるように工夫している。また、一人ひとりにとっての空間を大切に、ソファの配慮や向きなどに配慮している。	共用空間のリビングやテラス、廊下にはソファや椅子を複数設置し、一人ひとりが思い思いに過ごせる居心地良いスペースとなっています。包丁の音など生活の中の音を感じることを好んで、キッチン前のソファにいつも座っている方もいます。また掃除機をかける、洗濯物を干すなど、日々の暮らしを感じることで安心した生活の場となっています。食卓には使う利用者によって高さを調節できる六角テーブルがあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、集団に疲れたときに独りになれるような人の目を気にしない自分の場所。ホッと出来る場づくりを入居者と共に作る取り組みを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの私物などを持ってきていただくようにはしている。特に馴染みの家具や家族写真アルバムなど。自分の物で溢れた環境での暮らしに配慮している。	居室にはベッドやクローゼット、エアコン、洗面台の設備があります。家族の協力で馴染みのある家具、冷蔵庫やテーブル、椅子などの持ち込みができます。使い慣れた物入れや家族の写真などに囲まれる事も安心感に繋がっています。中にはベッドではなく床にマットレスを敷き、生活習慣のある布団を利用されている方もいます。入口のネーム札は本人手書きのものとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの声、その時々々の想いに触れる事を大切にしている。例えば、何かが出来にくいとしても、それ全部が出来ないのではなく、関連する何かが出来にくいだけなのかもしれない。本人がどこどの部分が出来にくいのか？表面上だけでなくしっかり向き合う事を意識している。		